

家族会議を 開いてみませんか



入間市教育委員会
家庭教育応援通信
2024年11月



こんにちは こちらは入間市教育委員会です

この家庭教育応援通信では
子育てに必要な情報を皆様にお伝えしていきます。

今回は
子育てでの「家族会議」について
そのメリットや会議の持ち方
などについてお伝えしていきます



入間市マスコットキャラクター
「いるティー」

子どもが話さなくなるのはなぜ？

何を聞いても「別に」「普通」「忘れた」…と答える子。
それは、それまでの経験から学んでいることが多いようです。

おとなに話すと否定される

「そんなの無理」

結局は親が決めてしまう

「〇〇にきなさい」

評価される

「だめね」

叱られる、説教される

「まったく、もう」

聞いてくれる余裕はない

「忙しいから後で」



家族会議とは

「家族会議」は、X（旧ツイッター）に投稿されたある家族の会議の議事録が「泣ける」「おもしろい！」と話題になったことで広まり、今では様々な実践が公開されています。（投稿はすでに終了しています）

会議と言っても、家族会議という名前のもとに、その時間になったら家族が集まって話すだけです。昔からよく以心伝心と言いますが、本当は口にしてみなければわからないのが家族ではないでしょうか。



なぜ家族会議なのか？

親が子どもの考えを否定しないで受けとめて、対等な立場で意見を交わす家族会議でなら、子どもが安心して自分の思いを伝えることができるようになります。

子どもの心が開くのにには時間がかかることもあります。短時間でいいので継続することです。ライターの玉居子泰子さんの記事は参考になりますよ。

また、子どものために始めたけど、やってみたら夫婦の理解が深まった、という実践者の感想もあります。

家族会議のメリット

家族会議のメリットとしては、よく次のようなことがあげられています。

- 家族みんなの意見や希望を全員で共有できる
（回を重ねると子どもの本音が聞ける）
- 各自の悩みや問題についてみんなで話し合える
（話し合って解決する力がつく）
- 家族が今よりさらに仲良くなれる。



家族会議で守ること

家族会議をやってみたけどうまくいかなかったら、次のことを守れたか振り返ってみる必要があるそうです。

- 怒らないこと
- 口をはさまずに話を最後まで聞くこと
- 1回で解決を求めないこと
- 子どもが飽きたら終わりにすること

これらの原則を守ることが必要です。そして、

- 子どもの発言を書いて残すこと

子どもの成長のためのツール

家族会議を開けば意見が衝突することは当然あります。そういうとき問題をどう解決するか。お互いの感情を理解したうえで新たな提案をしたり、それをもとにまた意見を出し合う。家族会議はそのためのツールとなります。

先の見えない現代で、子どもたちが他者と協働し未来を切り開いていく力をつけることができるのではないのでしょうか。



まずは定例会議から

会議のやり方は自由です。まずは時間を決めて定期的
に開く定例会議から始めるのがいいでしょう。

➤時間を設定しましょう

（土曜夕食後とか、月に1回、など）

（小さい子どもがいるときは10分でも大丈夫）

➤楽しい雰囲気にならしましょう

（おいしいお菓子をを用意する、など）

➤記録して会議を「見える化」しましょう

（コピー用紙やホワイトボードなど掲示できるように）



役割を決めて記録しましょう

- 議長 おとながなります。おもに時間の管理です。
- 書記 子どもに会議の進行と記録をまかせます。

<議事録> 投稿にあった家族の議事録はこんな具合です

タイトル ○月度家族会ぎ

書記 名前

△月の目標 各自の先月の目標とその達成度（○×）

○月の目標 それぞれの今月の目標

ぎ題 その日の議題と話し合いの結果

投稿では、例えば、こんな感じで記録していました。

記録に残すと、その後の日常生活で意識しますし、それぞれの意見が尊重されていると感じられますね。

会議録の実践例はたくさんあります。我が家に合ったものを考えてみましょう。

1 1 月度家族会ぎ 書記 はなこ

1 0 月の目ひょう

パパ→ビールは1日1かんまで ×

ママ→うんどうする ×

はなこ→ポケモンクリア ○

たろう→くつしたをほうりなげない ×

1 1 月の目ひょう

パパ→お湯わり1ぱいまで

ママ→ほんきでうんどうする

はなこ→やさい食べる

たろう→くつしたはせんたくきへ

ぎ題

パパのおこづかいアップについて ×

→ね上がりしたものが多すぎる

こんなやりかたも

親が作った質問紙に家族が記入して週末に会議をした家もあります。

会議録の定型文書もあります。まずは始めてみてから工夫していくとよいでしょう。



- ・ こんしゅうよかったこと
- ・ こんしゅうできたこと
- ・ こんしゅういやだったこと、つまらなかったこと
- ・ こんどいきたいところ、ほしいもの
- ・ らいしゅうしたいこと
- ・ かぞくのだれかにやってほしいこと

緊急会議

問題があったときには、定例会議とは別に、「緊急会議」として話し合うこともできます。

➤問題のメリットとデメリット両面から意見を出し合う
(私はこう思うけど、あなたは？というスタンスで)

➤深刻なテーマは子どもが話しやすいように工夫する
(例えば、「学校に行きたくない」→「じゃあ、どういう学校なら楽しいか？」で意見を出し合う)

➤話し合いたいことのある人がホワイトボードに議題を書き込むようにしておくこともできます。

成功のカギは議題

家族会議では、議題は、正面から向かうよりもその周辺について楽しく話す方が成功するそうです。

- ・家のことをもっとやってほしい
→家族がしてくれたらうれしいこと発表
- ・ゲームの時間制限が必要
→なんでゲームはこんなにおもしろいのか
- ・言っても言うことを聞かない
→聞きたくないことばトップ10





親の姿勢



子どもがふざけたりしたときに、親が「まじめにしないで」と叱ってしまうと家族会議は子どもにとってつまらないものになります。（そもそも、子どもはふざけるものですよね）

また、話をさえぎったり、親が先取りしてまとめてしまうことも、子どもがのってこなくなる原因になります。

「へえ、そうなんだ」「それで、それで」と相手の話を興味をもって聞くことの大切さを、まず親が身をもって示しましょう。

家族会議での学び



家族会議は親としての学びの場でもあります。

親子げんかになりそうなことでも、家族会議で互いに冷静に話し合えることがわかったら？

どんな小さい子でも、その子なりに（おとなと同様に）ものごとを考えているということがわかったら？

家族であっても、感情も意見も違う別人格だということがわかったら？

家族の存在を今以上に尊重できるようになるはずです。

子ども = 人格をもった人間

家族会議では、子どもは人格をもった一人の人間として尊重されることになります。

このことは、親にとってもよいことです。子どもは自分の一部ですべては親の責任と考えてしまいがちです。

ですが、子どもが自分とは別の人格を持った一人の人間だとすると、親にできることは限られますよね。

肩の荷がちょっと軽くなりませんか。



無理強いしない

それでも、家族会議に抵抗を覚える人もいます。

仕事から疲れて帰ってきてなぜ会議をするのか。
ふだん会ってるんだから必要ないだろう。

また、家族の話を聞かないで自分の意見を押し通そう
として陰悪になることもあります。

その時は、無理強いする必要はありません。例えば、
とりあえず、その人抜きで抜きで家族会議を開くことも
できます。

家族会議が終了するとき

家族会議が終了するときにはどんなときでしょう。

「やめる時がきたからやめる」

これはXにあげられた投稿の最後の議題です。

子育て期の家族会議は、家族にとって必要だから始まり、必要がなくなったら終了するのではないのでしょうか。再開することもあるでしょうが、家族関係の成長とともにその役割を終えるということなのでしょう。

今回は家族会議についてお伝えしました。いかがでしたか。

ネットで検索すればいろいろな方の実践例が見つかるので参考になると思います。

多くの方が、やってよかった、と述べています。

ぜひ、検討してみてください。



アンケートへのご協力をお願い

本通信の今後の向上のため、下記のURLをクリックしてアンケートにご協力ください

<https://forms.gle/i7rdZfEd3vWV8ZGw9>

ありがとうございました

